第3797図

かやつりぐさ科

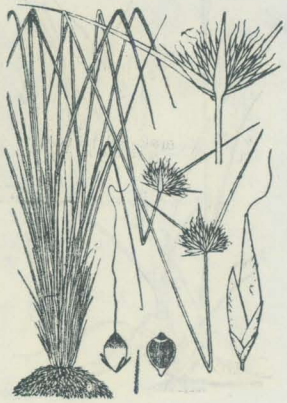
びろうどすげ

Carex Miyabei *Franch.*

北海道から北九州までの間の河原の砂地又は泥質の湿地に疎な群落を作る多年生草本。地下茎が長く横走し、根は黄褐色の綿状の毛あり、茎は円柱で下部には汚赤色の鞘状葉がある。葉は汚黄緑色で内へ凹んだ樋状、巾4mm位、茎は5月頃に花序をつけるが上部彎曲し、側生の雌穂は白い太ひげ状の柱頭で飾られて美しい。成熟すると円柱状、稍疎に果がつき、果嚢は斜開し、倒卵形で長さ4mm、先端長い嘴となり汚白色の毛を密布、嘴端と雌花穎とは汚血色の着色がある。和名は果嚢の毛の状態による。

第3798図

かやつりぐさ科



いがくさ

Rhynchospora rubra *Makino*

房総半島以西の暖地の向陽の低湿地に生ずる多年生草本。株立ちとなり、高さ30–40cm全体に淡緑色、稍ゝ硬く乾いた感じがある。葉は線形、巾2mm内外、軽く溝状。茎は中辺に葉をつけず直線的で9月頃に頂上に円く密集して小穂をつける。基部に数個の葉状苞あり、小穂は線状披針形、長さ8mm程で淡赤褐色、光沢あり、最下に1雌花、上部3–4は雄花。瘦果は長さ1-5mmの倒卵形で断面レンズ状、黄赤褐色、上部の肩に細かい突起を有し、頂に小形の嘴を帽子状に乗せ、その先は分岐しない長い柱頭につづく、子房下鬚はその1/2長、上向にざらつく。和名は花穂を栗のいがにたとえたもの。

第3799図

かやつりぐさ科

おおいぬのはなひげ

Rhynchospora Fauriae *Franch.*

北海道から裏日本を経て関西、或は中国地方の山間湿地に生ずる多年生草本。高さ40–60cm根茎は短少、数茎が叢生する。全体に強剛で直立性、暗緑色、盛夏を過ぎてから茎頂に近い葉腋に、濃褐色で尖った披針状紡錘体の小穂をつけ、その数2–4、其の長さ8mm程でイヌノハナヒゲとよく似ている。しかし瘦果は倒卵形で暗赤褐色、横に模様あり、子房下鬚は該種の瘦果の2倍程度なるに比べ3–4倍に達し、少数の上向きのざらつきあり、嘴は鋭尖の円錐体で瘦果と同長、花柱はその3倍長で中央まで2裂するので区別できる。

第3800図

かやつりぐさ科

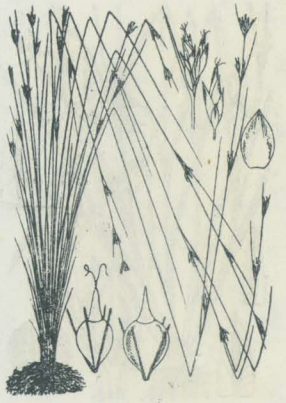
とらのはなひげ

Rhynchospora Brownii *Roem. et Schult.*

関西以西の暖地の低湿地に生ずる多年生草本。叢生し、高さ60cm内外、ひろく熱帯に互って分布する。イヌノハナヒゲに似ているが、小穂が長さ4mmで、短かいが太く狭卵形を呈し、多数が密集した聚繖花序となり、花序の柄が長くて多少傾く傾向あり、瘦果は長さ2mmに近く倒卵楕円体で、濃赤褐色、横紋あり、嘴はその1/2長で、花柱は深く2裂する。子房下鬚は6本、瘦果より多少短かく、上向きにざらつく。和名はイヌノハナヒゲに対比して虎を用いたもので、著者が嘗って名づけた。

第3801図

かやつりぐさ科



ひめいぬのはなひげ

Rhynchospora Faberi *C. B. Clarke*
(=R. Miyakeana *Makino*;
R. Umemurae *Makino*;
R. Hattoriana *Makino*)

日本海をとり巻く地域に発達したと思われるもので、各地の低湿地に普通の多年生草本。根茎は短小、茎葉は稍ゝ叢生し全体に瘠せ、汚黄緑色、茎は針金様で繊細だが軟かくはない。葉もまた茎と似た線形、盛夏をこえると茎頂に近い葉腋に2–3個宛の小穂を殆んど無柄につけるが、その重味で茎は彎曲するのが普通。小穂は淡褐色、長さ3mm。瘦果は倒卵形で、長さ2mm未満、暗褐色で横紋あり、頂は茶壺状に殆んど平で長い円錐形の嘴がつく。子房下鬚は瘦果の本体より少し長く下向きにざらつくのが普通、しかし平滑或は上向きのものもまじることあり。

第3802図

かやつりぐさ科

こいぬのはなひげ

Rhynchospora Fujiiana *Makino*

北海道から九州までの水湿地に生ずる多年生草本で匐枝は出さない。茎は高さ20–100cmで細そく、上部は少しざらつく。葉は細そくやや堅く、巾1–2mmで内へ巻いている。夏秋、上部の葉腋に短い柄をだし、やや少数の小穂からなる1–5個の花穂をつける。小穂は披針形赤褐色で長さ5–6mm、3–4個の花からなる。穎は披針状卵形で先はやや尖る。雄芯は3本、花柱は2裂。瘦果は狭倒卵形で長さ2mm許、褐色で細かい横皺があり、先端の嘴は長円錐形で果よりやや短かく、基に果より少し長い平滑或はざらついた6本の子房下鬚がある。